

科目ナンバリング											
授業科目名 ＜英訳＞		フランス語II A F2109 Intermediate French A				担当者所属 職名・氏名		非常勤講師 渡辺 貴規子			
群	外国語科目群			分野(分類)					使用言語	日本語	
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（外国語）（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	金3		配当学年	2回生以上	対象学生	全学向		
【授業の概要・目的】											
フランス文学 本講義では、初級文法の学習を終えた学生が読解できる、17世紀から20世紀のフランス文学作品の文章を集めたアンソロジー『レクチュールの冒険』を講読する。文学作品の名文を自力で読解することで、初級で学んだ発音や文法事項の知識を復習し、定着させる。また、現代フランス語の礎が築かれた17世紀以降の文学作品についての知識を学び、フランス文学史の入門とする。											
【到達目標】											
- 辞書を引き、初級文法の知識を活用しながらフランス語の文章を読解できる。 - 時制、構文を理解したうえで、フランス語の各文を理解し、適切な日本語に訳すことができる。 - フランス語の文章を正しく発音できる。 - フランス文学史に関する基本的な知識を獲得する。											
【授業計画と内容】											
受講者の発表を中心とした、講読形式で進めていく。											
- 初回の授業では、授業の進め方を説明するとともに、教科書に掲載されているパスカル『パンセ』の一節を読み、予習の方法等を示す。 - 第二回から第十四回の通常の授業で読む予定の文章は次の通りである。ただし、授業の進度によっては変更が生じる場合がある。その際は、授業内で指示する。											
第二回	デュラス『愛人』										
第三回	ジッド『贋金づくり』										
第四回	フロベール『感情教育』、モーパッサン「首飾り」										
第五回	スタンダール『赤と黒』										
第六回	ランボー『地獄の一季節』										
第七回	ルソー『ジュリー、または新エロイズ』										
第八回	ラ・フォンテーヌ「からすときつね」										
第九回	ラ・ファイエット夫人『クレヴの奥方』										
第十回	マリヴォー『愛と偶然の戯れ』、ボーマルシェ『フィガロの結婚』										
第十一回	バルザック『ゴリオ爺さん』										
第十二回	ボードレール「敵」										
第十三回	カミュ『異邦人』										
第十四回	ブルースト『失われた時を求めて』										
- 第十五回 期末試験 - 第十六回 フィードバック フィードバック方法は別途連絡する。											
----- フランス語II A F2109(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

フランス語II A F2109(2)

・受講者は毎回授業範囲を予習することが求められる。単語の意味を調べ、日本語に訳してくること。授業の中で、指名された受講者は、指定された箇所を音読し、日本語に訳す。また、文法的事項、語彙に関する質問に答える。発表に対する態度は授業参加点として平常点に含まれる。

・発表の様子から明らかに予習を怠ったと判断される場合は、平常点から減点する。

・前期期間中に二度、小テストを行う。語彙や仏文和訳、発音、文法事項の理解を問うもので、復習に活用すること。

【履修要件】

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

【成績評価の方法・観点】

・平常点40パーセント、期末試験の結果を60パーセントとして算出する。

・平常点とは、出席状況及び授業参加度、小テストの結果の合計を指す（出席状況及び授業参加度30パーセント、小テストの結果10パーセント）。授業に欠席した場合、その日の平常点は0点となる。

・原則として、4回以上欠席した場合は単位を認定しない。

【教科書】

柏木隆雄ほか編『レクチュールの冒険』（朝日出版社）ISBN:9784255351704

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回きちんと授業範囲を予習しておくことが必要である。単語の意味を仏和辞典で調べ、文章を訳し、音読できるようにしておくこと。また、小テストの前には、テスト範囲の文章に関して復習を行うことが必要である。

【その他（オフィスアワー等）】

【主要授業科目（学部・学科名）】